

## 安全データシート (SDS)

## 1. 製品及び会社情報

製品名： スパノン S  
 会社名： 株式会社タセト  
 所在地： 〒251-0014 神奈川県藤沢市宮前100-1  
 緊急連絡先： 化学品部  
 電話番号： 0466-29-5638  
 FAX番号： 0466-29-5630

推奨用途及び使用上の制限： 溶接時のスパッタ付着防止剤

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性:	引火性液体	区分外
	* 記載のない物理化学的危険性は、分類対象外又はデータが無く分類できない。	
健康に対する有害性:	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:気体)	分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
	急性毒性(吸入:粉塵・ミスト)	区分4
	皮膚腐食性及び皮膚刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	区分2
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分2
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分3 (気道刺激性)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1 (肺)	
環境に対する有害性:	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境有害性 (急性)	分類できない
	水生環境有害性 (長期間)	分類できない
	オゾン層への有害性	区分外

## ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語： 危険  
 危険有害性情報： 吸入すると有害  
 強い眼刺激  
 発がんのおそれの疑い  
 呼吸器への刺激のおそれ  
 長期又は反復ばく露による臓器(肺)の障害

注意書き： **【安全対策】** 保護眼鏡、保護面、保護手袋を着用すること。  
 換気のよい場所で使用すること。  
 蒸気・ミストを吸入しないこと。  
 取り扱い後はよく手を洗うこと。  
**【応急処置】** 皮膚に付着した場合、汚染された衣服を再使用する前に洗濯すること。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当を受けること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当を受けること。

【保管】 容器を密閉して涼しく換気の良いところで保管すること。

【廃棄】 環境への放出を避けること。

内容物、容器を国または都道府県の規則に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

含有成分：

成分名	含有量(%)	CAS No.	PRTR法 <sup>1)</sup>
水	40～50	7732-18-5	非該当
無機白色粉末	45～55	非公開	非該当
酸化チタン <sup>II)</sup>	<5	13463-67-7	非該当
非晶質シリカ <sup>II)</sup>	<2	7631-86-9	非該当
防錆剤、その他	<1	非公開	非該当

危険有害成分

I)化学物質排出把握管理促進法 1成分

II)労働安全衛生法 第57条2 通知対象物質：酸化チタン(IV) (政令番号191)  
シリカ (政令番号312)

毒物劇物取締法 対象物ではない

### 4. 応急措置

- 目に入った場合： こそらずに、すぐ清浄な水で目を洗い、医師の手当てを受ける。  
もし、コンタクトレンズを使用の場合はできるだけ取りのぞいて洗浄を続ける。
- 皮膚に付着した場合： 水又は石鹼でよく洗い流す。もし皮膚に炎症が生じた時は、必要に応じて医師の診断を受ける。
- 吸入した場合： 風通しのよい所へ移し、新鮮な空気を吸わせる。
- 飲み込んだ場合： 水で口をすすぎ、すぐにコップ1～2杯水を飲み、必要に応じて医師の手当てを受ける。

### 5. 火災時の措置

- 消火方法： 本品自体は不燃性。火災にさらされた時には、大量の水で消火する。一般的な消火方法でよく、限定しない。周辺火災の場合は容器を安全な場所に移動する。消火作業は風上から行い、場合によっては呼吸保護具を着用する。
- 消火剤： 水噴霧、水蒸気、霧状強化液、泡、粉末、炭酸ガス、ハロゲン化物

### 6. 漏出時の措置

流出したものが河川などに流れこんで環境に影響を与えることのないよう注意する。  
少量の場合、漏出液はおがくず、ウエス、砂などに吸収させて処理する。  
多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、バキューム車などで回収する。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い： 吸い込んだり、目、皮膚および衣類に触れないように適切な保護具を着用する。  
取り扱った後の手、顔などは十分に洗浄する。  
容器を転倒させたり、落下させたり、衝撃を加えたり、または引きずるなどの粗暴な取扱いをしない。
- 保管： 屋内貯蔵。ふたをして容器を密閉し、換気良好な冷暗所に直射日光や錆の発生しやすいところを避けて保管する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:	設定されていない
許容濃度:	日本産業衛生学会(2012年版) 第二種粉塵; 吸入粉塵 1mg/m <sup>3</sup> 、総粉塵 4mg/m <sup>3</sup> ACGIH 酸化チタン: TLV-TWA 10mg/m <sup>3</sup>
防止対策:	局所排気の設置
保護具:	呼吸用保護具は、防塵マスクを着用。 保護眼鏡は、ゴーグル。保護手袋は、ゴム製、またはビニール製手袋 保護衣類は、前掛け。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観:	白色液体
臭気:	ほぼ無臭
比重:	1.5
pH:	7~9
溶解性:	水で希釈可能
沸点:	100°C(水として)
引火点:	水溶液であり、引火しない。
発火点:	なし
爆発限界:	なし

## 10. 安全性及び反応性

安定性:	安定である。
自己反応性・爆発性:	なし

## 11. 有害性情報

急性毒性(経口):	区分外
急性毒性(経皮):	区分外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉塵・ミスト):	防錆剤:ラット LD <sub>50</sub> 値(5.5mg/m <sup>3</sup> /4H)から算定した急性毒性推定値 2560mg/Lから区分4とした。
皮膚腐食性・刺激性:	区分外
眼に対する重篤な損傷・刺激性:	防錆剤:ウサギの眼刺激性試験で、Mild, Moderate の記述がある。(区分2A) 酸化チタン:ウサギを用いた試験で刺激性あり(mild)との記述がある。(区分2B)
呼吸器感受性、皮膚感受性:	分類できない
生殖細胞変異原性:	分類できない
発がん性:	酸化チタン:IARCグループ2Bヒトに対して発がん性の可能性がある。(区分2)
生殖毒性:	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	酸化チタン:「ヒュームは気道を刺激する」との記載により、気道刺激性があると判断される。(区分3)
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	20年以上職業ばく露している労働者の極わずかであるが、肺機能の変化は伴わないが、X線検査でじん肺症変化が明らかになったとの記載により、標的臓器は肺(粉塵吸入)と判断される。長期又は繰り返しのばく露があると肺障害(粉塵吸入)を起こす。(区分1)
吸引性呼吸器有害性:	分類できない

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性):	分類できない
水生環境有害性(長期間):	分類できない
オゾン層への有害性:	区分外

### 13. 廃棄上の注意

[取扱いおよび保管上の注意]に記載する注意点に従う他、法規制に従った処理方法をとる。

残余廃棄物を焼却する場合は、法規制に従って適正に処理する。

残余廃棄物および空容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた業者に本MSDSを提示し、法規制に従った適正な処理を委託する。

### 14. 輸送上の注意

国連番号：非該当

国連分類：非該当

[取扱い及び保管上の注意]に記載する注意点に従う他、法規制に従った輸送方法をとる。

輸送前に容器が密閉されているか確認する。

容器の輸送および運搬は、常にしっかり固定した状態でおこない、特に缶は輸送中に互いに衝突して破損することのないようにあらかじめ適当な緩衝物を詰める。

### 15. 適用法令

消防法：非該当

労働安全衛生法：通知対象物質 酸化チタン、シリカ

化学物質排出把握管理促進法：非該当

(PRTR法)

毒物及び劇物取締法：非該当

水質汚濁防止法により、有機物負荷排水を直接環境へ放出することは規制されている。

下水、河川、海、土壌中に直接廃棄することはできない。

### 16. その他の情報

参考文献：

- 1) 独立行政法人 製品評価技術機構(NITE) GHS分類結果
- 2) 日本塗料工業会「GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック [混合物用(塗料用)]」
- 3) JIS Z 7252:2009「GHSに基づく化学物質等の分類方法」
- 4) JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」
- 5) 株式会社タセト 社内資料(原材料MSDS)

---

#### 記載内容の取扱い

本データシートは、製品の安全性に関する要求事項を記載しています。

本データシートは、製品の安全な取扱いを確保するための「参考情報」として、作成時点で当社の有する情報を取扱事業者を提供するものです。取扱事業者は、この情報に基づいて、自らの責任において、適切な処置を講ずることが必要です。

従って、本データシートは、製品の安全を保障するものではなく、本データシートには記載されていないが、当社が知見を有さない危険性及び有害性のある可能性があります。